

II-46 インターネットによる 関西文化学術研究都市の情報発信

(株)大林組 浜嶋鉦一郎

○ 高橋 啓子

1. はじめに

当社は、先端的な技術が集積し始めた関西文化学術研究都市に情報発信の拠点を置き、高速通信網の利用方法やネットワーク環境を利用した高度な情報利用方法を研究している。研究の一つに、発展過程にある関西文化学術研究都市の街づくりに役立つ情報の構築と発信がある。この研究は、平成8年11月に、関西文化学術研究都市を紹介するホームページをインターネットに公開して以来、主に都市イメージ情報の提供を対象として、開発段階にある都市紹介の有用性や街づくりデータとしての公開情報の意義を確認しつつ、発展させている。

本ホームページが他の関西文化学術研究都市に関するホームページと異なっているのは、写真や写真を連続的に見せるQuickTime VRなどビジュアルな資料を用いて都市イメージを紹介している点である。具体的な姿をイメージ情報で提供することは、遠隔地の人々にあたかも現地を訪れたような理解を与えることができ、関西文化学術研究都市の住民だけでなく関西地区や世界の人々の理解を容易にすることができる。しかしながら、実際の作業に際して、都市情報のデジタルデータ化には、その内容に限りがない。また、現地の最新の姿を表すためには、新規情報の入手と既存情報の更新には時間を要する。

本文では、本ホームページを関西文化学術研究都市のデータベースとして位置づけ、当社で取り組んでいる街づくりのための情報インフラストラクチャーの構築を紹介する。

2. 情報発信の背景

本ホームページを公開する前に、最初のイメージ情報を制作したのは、新世代通信網実験協議会「高速LANプロジェクト」のB-ISDN通信実験においてである。ここでの高速通信網において、写真やQuickTime VRなどの大容量の画像データを大量に使用したWWWのデータがどの程度の速度で表示されるかを実験することを目的として、精華・西木津地区のイメージ情報のWebを制作した。

その後、当社は関西文化学術研究都市の紹介に貢献できる情報提供の方法として、独自にインターネットに公開することにした。現在、この精華・西木津地区から始めて、関西文化学術研究都市のすべての地区のイメージ紹介を進めている。この過程において、本ホームページを街づくりのデータベースとして位置づけ、内容の充実に務めている。

2.1 街づくりのためのデータベースの必要性

関西文化学術研究都市は、文化学術研究地区で計画人口18万人、全地域で38万人の都市となる計画である。関西文化学術研究都市は、平成8年にセカンドステージを迎え、公共施設、企業施設、住宅建設を推進している。産業界、大学、官公庁、地域住民が街の発展とよりよい環境づくりを目指している。

関西文化学術研究都市に限らず、特定の地区や地域を理解するには、地理、外観、施設構成、企業活動、文化活動などさまざまな情報が必要になる。一般的には、都市を調査するには実際に現地を訪問することが有効である。ただし、関西文化学術研究都市のような規模では、事前に情報を入手してから現地を見て回ると、効率的に理解することができる。そのためには、最新の都市イメージ情報のデータベースが用意されて

いと都合がよい。街づくりには、さまざまな人が参加するが、常に最新の姿の情報が必要になるであろう。しかし、広範囲の地域を常に見て回することは困難であり、ネットワーク上に情報が公開されていることが好ましい。

2. 2 情報を提供する対象

著者は、関西文化学術研究都市で働く一員として、この都市が発展することを期待している。計画通りに都市が発展するためには、速やかに都市建設が進み、人口が増大するとともに都市の活動が活発になることである。日常的に目で見ている関西文化学術研究都市の建設は着々と進んでいる。初めて当地を訪れる人は発展ぶりに驚かれるであろう。一方、まだまだ大阪、京都など近くの都市に住んでいてもよく知らない人が多いのが現状である。

当社のホームページは、地区の特徴を地図と道路や建物の実写イメージで説明する現地のイメージ情報を提供している。インターネットは、情報を自由に公開し、誰でも自由に見れる環境であるが、制作の考え方として関西文化学術研究都市のデータベースを制作するにあたり、情報の一つ一つが誰のために役立つものであるかを明確にして、効果的な情報を蓄積することを心がけている。

たとえば、世界的な研究所の存在は、その分野の研究者や一般の人々に興味があるであろうし、企業の研究所の集積状況は、さまざまな企業に興味を与える。美しい環境の住宅地や公園などの街なみの情報は、住みやすい住宅環境を探している人々に貴重な情報となる。平城宮跡の現状の紹介は、歴史や遺跡に関心を持っている人に楽しんでもらえる。このようなことを考えながら、一つずつ情報を制作している。

3. 「関西文化学術研究都市」のホームページ内容

3. 1 精華・西木津地区のホームページ

前述したように関西文化学術研究都市の「精華・西木津地区」のイメージ紹介が最初に制作された。精華・西木津地区は、関西文化学術研究都市の中心として、交流及び研究施設としてのけいはんなプラザ、けいはんなプラザに隣接して住宅・都市整備公団の関西文化学術研究都市展示館がある。また、国際高等研究所やすでに開設後10年を経過した国際電気通信基礎技術研究所（ATR）がある。住宅地も光ファイバーによる次世代通信の実験が行われている光台、また、奇抜なデザインによる京都府のけいはんな記念公園が整備されている。

この地区を紹介するのにホームページでは、5つのブロックに分け、写真とQuickTime VRという手法を取り入れて、詳細に紹介している。QuickTime VRは、ある地点から周辺360度のパノラマを見せるパノラマムービー及び、見せる対象地点を囲む360度の半球上から眺めるオブジェクトムービーがある。パノラマムービーは、ホテルや展示館の室内の様子及び道路や高台からの景観情報を伝えるのに使用した。オブジェクトムービーは、精華大通りを紹介するのにビデオを備えた車で道路走行し、映像を間引きして50画面程度の連続したムービーを作成した。また、歩道から沿道の研究施設を紹介するために使用した。各研究施設は、地図で位置を示し、それとリンクさせて個別に写真により紹介している。

3. 2 全体構成と利用効果について

関西文化学術研究都市のイメージ紹介は、12のクラスター地区を対象に紹介するもので、街の景観、立地施設紹介から開始した。全体の構成は、図-1に示される。また、ホームページのイメージとして、図-2に関西文化学術研究都市のクラスターの一つである高山地区の例により地区紹介のフォーマットを示す。

具体的な情報を順次掲載しているが、基本的な情報として全体の概要を整備した後に、個別に役立つ情報を制作することとしている。特に、まず自ら役立つ情報から始めることが大切と考えた。たとえば、交通ア

クセスであるが、一般的に地図が用いられるが、それでもよく分からない場合が多く、いろいろと推測することが多い。そこで、Webならではの写真イメージの説明を取り入れ、駅前や進入路の交差点を具体的に説明する方法を用いる。誰もがすぐに分かる表現は、これだけで初めて訪れる多くの人々の時間の節約になるし、現地も資料を送ったり、その都度相手先に説明を加える必要が無くなる。これは、自社だけでなく同地区の企業関係者にも広く利用されれば、地域に貢献することになる。この作成には、一度訪問された人が分かりづらかったことをいかに初めての人に伝えるかが難しく、苦心している。

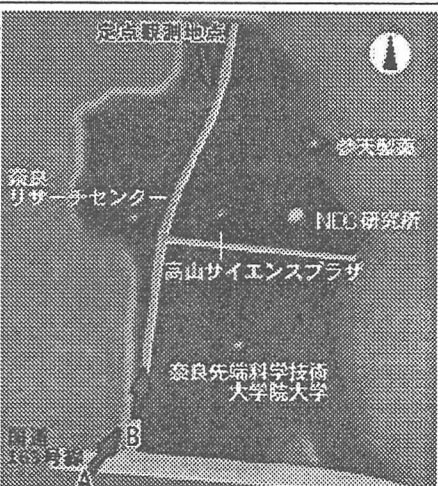
また、ホームページの情報提供は、他機関と情報作成が重複しないように関係機関と協調しながら、地域で情報共有化を進める。

■概要		■けいはんなプラザへの交通案内	
位置			
交通（鉄道・道路）		■見学施設一覧	
近畿のプロジェクト			
■地区紹介（12のクラスター）		□地区紹介の内容	
田辺地区	平城・相楽地区	田原地区	全体景観
南田辺・狛田地区	普賢寺地区	平城宮跡地区	道路景観
木津地区	氷室・津田地区	高山地区	施設紹介
精華・西木津地区	清滝・室池地区	北田原地区	住宅地・公園

図－1 大林組の関西文化学術研究都市のホームページの構成

地区紹介 - 高山地区 -

奈良県に位置する高山地区は、国立奈良先端科学技術大学院大学や通信放送研究施設である奈良リサーチセンターをはじめとした高度な教育研究施設や文化学術研究施設及び、住宅や公園施設で形成されるサイエンスタウンを目指して整備が進められています。



街の様子
(写真をクリックすると拡大します)

全体景観（A地点から）



道路景観（B地点から）



施設紹介

定点観測

[関西文化学術研究都市-地区紹介]
[田辺/南田辺・狛田/木津/精華・西木津/平城・相楽/普賢寺/氷室・津田/清滝・室池/田原/平城宮跡/高山/北田原]

keihanna@pub.obayashi.co.jp

図－2 高山地区による地区紹介の例

3. 3 制作体制とメンテナンス

本ホームページの制作については、シナリオづくり、写真の撮影、ホームページの作成などすべて自社制作である。担当者は5人で、分担して作業を行っている。担当者はどちらかというと素人で特別な才能を持っているわけではない。そのため、デザインの質は普通で、作成も効率的とは言えないのが現状である。制作機器はマッキントッシュで、画像処理ソフトは主にPHOTOSHOPである。写真の撮影は、事務所の車を利用する。メンテナンス作業は、定期的に新しい写真の入れ替えや新規建設施設の追加などがある。また、新しい情報の追加を企画している。

3. 4 P R

本ホームページのP Rは、関西文化学術研究都市において、けいはんな地区の交流会の展示などで行っている。また、地区紹介については、関連機関からリンクの要望があり、利用されている。

4. 今後の制作内容

今後に予定している情報にはつぎのものがある。これらについても、写真イメージで説明する方法を取る。

(1) 各地区紹介において「住宅地・公園」の紹介

特に住宅・都市整備公団の開発地区は、古くから緑道が整備されたり、水景施設が充実している。また、一戸建ての建築についても、新しい建築様式が見られる。住宅地区内の公園なども特徴的であり、これらも紹介することでバランスのよい都市紹介となる。

(2) 平城宮跡地区の詳細な紹介

平城宮跡地区は、平城宮跡そのものの範囲となっている。関西文化学術研究都市の文化面でもっとも中心的な地区と言える。最近、朱雀門や東院庭園が復元され、全国的な関心が高い地区である。広大な宮跡と復元状況のイメージを紹介できればと考えている。

(3) 道路交通のイメージ紹介

関西文化学術研究都市のクラスターを見て回るには、車が便利である。各クラスターへの進入路の位置やもよりの交差点を紹介することが来訪者に役立つであろう。また、交通網整備の現状も理解できるような表現を行いたい。

(4) 宿泊施設、レストラン、飲食店の紹介

当地の見学には、宿泊も必要であり、宿泊とともに夜の雰囲気体験できる。街づくりには、「赤ちょうちん」が必要であるとの指摘は多い。実際の街の成長具合を飲食施設の繁栄で評価する考えに基づくならば、このような情報が役立つかもしれない。

5. おわりに

本文では、関西文化学術研究都市を紹介するホームページの内容とそれが街づくりに役立つことを想定してデータベース化を行うことを述べた。情報発信により、社内のネットワークあるいは社外のネットワークでの人と人との交流が始まる。関西文化学術研究都市のホームページの掲載後に近隣の機関からの問い合わせがあり、交流が深まっている。ホームページの内容についても相談を行うなど、互いに話題になることが地域交流となる。地域交流や域外との交流が進むことがホームページの制作を継続する原動力ともなる。また、一方通行の情報発信のためのホームページ作成では、つまらない。ホームページに街づくりの提案などの意見を掲載するなど、都市の姿のイメージ情報だけでなく人々の気持ちの情報も含まれて、充実した情報共有の場になればと期待するとともに努力したい。